

平成 7 年度技術開発実施報告書

様式 2-2

課題名	亜熱帯性広葉樹天然林の施業方法について			
課題区分	継 続 自 主	開 発 個 所	沖 縄	開 発 期 間 昭和 61 ~ 平成 10
当年度別実施計画		当年度 実施報告		
<p>1. 隔年調査方式により林分調査計画なし。</p>		<p>1. 昭和 61・63 年度設定箇所</p> <p>(1) 調査地に通ずる歩道修理</p> <p>(2) 場所 平良国有林 / い林小班</p>		

課題名	亜熱帯性広葉樹天然林の施業方法について			
課題区分	自主	開発箇所 沖縄	開発期間 昭和61年 ～ 平成12年	
当年度別実施計画		当年度実施報告		
<p>森林資源の充実を目的とする天然林施業体系の確立をはかる。</p> <p>5年度実施計画</p> <p>1. 成長量調査</p> <p>2. 相対照度調査</p> <p>3. 用材予想率調査</p>		<p>5年度実施報告</p> <p>1. 伐区別成長量調査</p> <p>① 胸高直径の成長</p> <p>② 樹高の成長</p> <p>③ 材積の成長</p> <p>④ 樹種別の成長</p> <p>2. 相対照度調査</p>		

平成9年度技術開発実施報告書

様式2-2

沖縄 営 林 署

<p>課 題 名</p>	<p>亜熱帯性広葉樹天然林の施業方法について</p>				
<p>課題区分</p>	<p>自 主</p>	<p>開発 箇所</p>	<p>沖 縄</p>	<p>開発 期間</p>	<p>昭和61年 ～ 平成12年</p>
<p>当年度実施計画</p>			<p>当年度実施報告</p>		
<p>隔年調査を計画しており 平成9年度は実施計画なし</p>			<p>実施なし (隔年調査のため)</p>		

平成10年度技術開発実施報告書

様式2-2

沖縄

森林管理署
事務所
森林管理センター

課題名	亜熱帯性広葉樹天然林の施業方法について				
課題区分	自主	開発箇所	沖縄森林管理署	開発期間	昭和61年 ～ 平成12年
当年度実施計画			当年度実施報告		
<p>1. 成長量調査 2. 相対照度調査 3. 用材予穂率調査</p>			<p>1. 成長量調査について 調査実施の時期が年度末に ずれ込み、①森林官と臨時作業 員との日程調整がとれず、2日前 しか調査が出来なかったこと。 ②本署から応援が出来なかつた ことにより、全プロット調査が 終了していない状況である。</p> <p>2. 相対照度調査 上記1に同じ</p> <p>3. 用材予穂率調査 未実行。</p> <p>対処策 森林官及び経営係により、 残ったプロットの調査を実行する こととする。</p>		

技術開発実施報告 - 計画

九州森林管理局

様式 2

課題	9 亜熱帯性広葉樹天然林の施業方法について	継続 (自主)	担 当	指導普及課	開発 箇所	沖縄森林管理署	
目的	森林資源の充実を目的とする天然林施業体系の確立を図る。	開発期間		昭和61年度 ~ 平成12年度			
年度別実施経過		11年度実施報告				12年度実施計画	
		実施内容	備考 (評価及び普及指導)				
<p>1 試験地設定 (昭和61, 63年度)</p> <p>(1) 場所 平良国有林1い</p> <p>(2) 面積 1.28ha</p> <p>(3) 林況 シイを主とする広葉樹天然林38年生 ha当り10,000本 材積100m³</p> <p>(4) 設定方法 除伐強度区分 強(40%) 中(25%) 弱(10%) 対照区の4区分</p> <p>2 除伐前調査</p> <p>(1) 相対照度調査 (昭和61, 63年度)</p> <p>(2) 樹種別林分調査 (") 本数, 径級, 樹高</p> <p>3 除伐実行 (昭和62, 63年度)</p> <p>4 除伐後調査</p> <p>(1) 相対照度調査 (昭和61, 63, 平成2, 8, 10年度)</p> <p>(2) 樹種別林分調査 (昭和61, 63, 平成2, 8, 10年度)</p> <p>(3) 成長量調査 (平成8, 10年度)</p> <p>(4) 用材予想率調査 (平成10年度)</p> <p>5 歩道修理 (平成7年度)</p>		実施計画なし	平成8年度から平成12年度まで開発期間を延期。		<p>1, 相対照度調査</p> <p>2, 樹種別林分調査</p> <p>3, 成長量調査</p> <p>4, 用材予想調査</p> <p>5, 周囲刈り払い</p> <p>6, 成果の取りまとめ</p>		

技術開発実施報告・計画

様式 2

沖繩 森林管理(支)署
~~事務所~~
~~森林管理センター~~

課題	9 亜熱帯性広葉樹天然林の施業方法について		継続 新規	担当	指導普及課	開発箇所	平良 園有林 /い 林小班																												
目的	森林資源の充実に目的とする天然林施業体系の確立を図る。		開発期間	昭和 56 年度 ~ 平成 12 年度																															
年度別実施経過	12年度 実施報告		10年度 実施計画																																
	実施内容	備考 (評価及び普及指導)	実施計画																																
1 試験地設定(昭和61,63年度)	○現場前存のたりの周囲刈払い及び現地までの歩道修繕を度施す。 ○報告書作成のための諸調査は、全プロットの調査が終了している状況であり、残ったプロットの調査は、今年度実行したい。		研究成果を発表課題としてまとめる計画である。																																
(1)場所 平良園有林1区			経費科目 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>品名</th> <th>数量</th> <th>単価</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">内</td> <td>物件費</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>役務費</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">訳</td> <td>人件費</td> <td>基職 ()人</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨時</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td></td> <td></td> <td>千円</td> </tr> </tbody> </table>						品名	数量	単価	金額	内	物件費				役務費				訳	人件費	基職 ()人			臨時	人			計				千円
								品名	数量	単価	金額																								
内								物件費																											
								役務費																											
訳	人件費	基職 ()人																																	
	臨時	人																																	
計				千円																															
(2)面積 1.28ha																																			
(3)林況 3代主として広葉樹天然林の8年生 相当り10000本 林積100m ³																																			
(4)設け方法 了床伐(遮度区) 鉄(90)中(25)高(10)の 所成前調査 対照区の4区分																																			
2 所成前調査																																			
(1)相対照度調査(61,63年度)																																			
(2)樹種別材積調査() (本校送後、樹高)																																			
3 所成実行(62,63年度)																																			
4 所成後調査																																			
(1)相対照度調査(61,63,64年度)																																			
(2)樹種別材積調査() (63年度設計箇所) (4,6~7年度)																																			
(3)材積調査(8年度)																																			
5 歩道修繕(7年度)																																			

(注) 1 課題欄には、技術開発課題名に番号を付して記入する。
 2 実施報告欄には、当該年度の開発成果を記入する。
 3 備考欄には、開発成果の評価等について記入する。

技 術 開 発 完 了 報 告 書

様式 3

九州森林管理局

課 題	4 亜熱帯性広葉樹天然林の施業方法について	開発期間	昭和61年度～平成12年度
開発箇所	平良国有林1い林小班	技術開発目標	森林資源の充実を目的とする天然林施業体系の確立を図る。
開発目的	亜熱帯性気候下における林業技術の体系化を図るための一環として、木材生産機能の強化とともに、公益的機能の充実を図るための広葉樹天然林の施業方法を究明する。		
開発成果	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>1. 試験地設定（昭和61・63年度）</p> <p>(1) 場所 平良国有林1い林小班</p> <p>(2) 面積 1.28ha</p> <p>(3) 林況 シイを主体とする広葉樹天然林38年生</p> <p>(4) 設定方法 ア、除伐強度区分 強（40%）中（25%）弱（10%）対照区の4区分</p> <p>2. 除伐前調査</p> <p>(1) 相対照度調査（昭和61・63年度）</p> <p>(2) 樹種別林分調査（昭和61・63年度） 本数・径級・樹高</p> <p>3. 除伐実行（昭和62・63年度）</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>4. 除伐後調査</p> <p>(1) 相対照度調査 （昭和61・63・平成2・8・10・12年度）</p> <p>(2) 樹種別林分調査 61年度設定箇所 （昭和61・63・平成2・8・10・12年度） 樹種別林分調査 61年度設定箇所 （平成4・6～7年度）</p> <p>(3) 生長量調査（平成8・10・12年度）</p> <p>5. 歩道修理（平成7年度）</p> </div> </div> <p>1. 肥大生長は、全体として強度の除伐を実施した方が効果がある。</p> <p>2. 樹高生長は、全体として中度・強度の除伐を実施した方が効果がある。</p> <p>3. 沖縄の主要樹種について、材積生長量を調べた結果、樹種により除伐の効果に差が出るが、イタジイ、イジュについては弱度、シャリンバイについては中度、シバニッケイについては強度の除伐で材積生長が最大となった。</p> <p>4. モッコク、ユズリハは、除伐の強度による差は見られなかった。</p> <p>以上の結果から、亜熱帯性広葉樹天然林における除伐による立木の生長促進の効果は認められた。</p>		
評価及び普及指導	<p>全般的には除伐により生長量に差はあったが、地位・気象条件等の影響により林分全体の生長速度が非常に悪く現段階では、将来経済林として期待はできるが、天然林としての施業を実施する上で、顕著な成果は出ていない。そのため、今後の生長状況を観察しながら施業方法を検証していく必要がある。</p>		